

原木需給情報システム開発事業関連海外情報

No.3, 24 April 2013



ロシアの木材輸出の動向

1 ロシアのWTO加盟とその波紋

2012年8月、ロシアはWTOの正式メンバーになった。

これとともに、欧州委員会によって承認されたロシア製品の新しい関税が実施された。関税の段階的削減に伴い、木材に関するロシア連邦の関税政策の大変化は、主として針葉樹丸太の輸出に影響するものと思われる。ロシアの丸太輸出の大部分が針葉樹丸太であることを思えば、これは極めて当然のことである。

2012年には、関税同盟を締結している国々、特にベラルーシ、ロシア連邦およびカザフスタンへの丸太輸出に係る関税が15%であったのに対し、関税同盟の非締結国への関税が契約価格の25%にもなっていたことを思い起こしてみなければならない。加工されていない、ヨーロッパトウヒ (*Picea abies* (L.) Karst.) あるいはヨーロッパパイン(ヨーロッパモミ)には、欧州連合の国々への600万 m^3 を含む620万 m^3 の数量の関税割当てがあり、その関税は13%で、この割当量を超えるものには80%の関税がかかっていた。ヨーロッパアカマツ (*Pinus sylvestris*) の丸太輸出の割当量は、EUの国々への360万 m^3 を含めて、約1,600万 m^3 で一定していた。この割当量に対する関税は15%で、これを超えるものについては、80%であった。割当量は、ライセンスによって割り当てられている。このように、ロシアのWTO加入後は、かなり削減された輸出関税(現行のレベルに比べ、ほぼ半分)の下で、2,230万 m^3 のパインとスプルースの木材を輸出することが可能になってくるであろう。WTO加入前年の2011年には、針葉樹と広葉樹を合わせて高密度材(木目のつまっている材:1インチ(25mm)あたりの年輪数が6以上で少なくとも3分の1が夏材であるもの、または1インチ(25mm)あたりの年輪数が4で少なくとも50%が夏材であるもの。訳注)総計約2,100万 m^3 しか輸出できなかったことを思い出さねばならない。他の種類の針葉樹については、上

記のものを除き、関税率は、引き続き25%のままである。最近、針葉樹材は、主として中国(60%以上)、日本およびドイツへ輸出されており、関税同盟締結国に関しては、基本的にはウズベキスタンへ輸出されている。ロシアのWTO加入の結果として関税を譲歩したことは、丸太輸出志向を高めることになるであろう。多くのアナリスト達の見解によれば、WTO加入後のアンガラ(Angara)やトランスバイカル(Angara)といったロシア北西部の丸太輸出のめざましい成長は、ほぼ確実である。その一方でこのことは、ロシアの針葉樹材の高度加工を進展させようとする投資家の興味を減じることになり、また、その結果、国内市場における原料不足を増加させることになるであろう。

2. 広葉樹木材の輸出

ここ2年の間、針葉樹材の出荷がわずかに減少したことにより、広葉樹の伐採レベルがかなり高くなっている。前年同時期と比べ2012年前半には、量的に4%の増加が記録されている。全木材輸出金額における広葉樹木材輸出の割合は、3%のレベルに過ぎないことに言及しておかなければならない。

長年にわたり、ロシアからの広葉樹木材輸入が一番多かったのはフィンランドで、その輸入量は、ロシアの全広葉樹木材輸出の半分弱である。二番目は中国で、イタリアは5%以内である。

2012年のオーク材丸太の輸出に設定された関税は、100ユーロ/m³である。2013年には、それが契約輸出額の20%になるであろう。WTO加入の移行期間の終わりまで、この種の木材の輸出関税率は変わらないと思われる。

ブナとトネリコの丸太の関税は、2012年の100ユーロ/m³という額が同じままである。

ポプラとユーカリの丸太のようなロシアの輸出材としてはまれな樹種の税率もまた10%、最小でも5ユーロ/m³という同じ税率のまま残るであろう。

カバ材の輸出は、広葉樹材輸出の主たるものである。2013年には、カバ丸太の税率は、現在の25%から削減されて7%になるであろう。過去2年の関税のそのような実質的削減は、フィンランドからの活発な働きかけによる。

ハコヤナギ(aspen)の未加工材の税率は、半減して5%になるであろう。

3 WTO加入後のロシアの輸出の変化

新しい税率は2013年の間に施行され、その後は、税率がさらに低下するであろう。それまでの間の、WTO加入後のロシアの輸出の変化を分析してみよう。分析の中では、昨年と同じ期間と比較した2012年前半末のロシアの関税事務の統計データを使用している。

ロシアは、伝統的に、世界市場で未加工の木材を売っており、長年にわたり、

輸出品の世界で第2位の位置をずっと占めている。しかしながら、ここ5年の間、外国市場への丸太の供給が段階的に下降傾向にあり、今年もこの傾向は継続されていた。2012年前半末までに、輸出品が著しく減少していることに気づかされる。この1年ででは、実材積で18%下がり、8,500 m³になった。

丸太は、主として関税同盟非締結の国々（一番多くは中国）へ輸出されている。これらの国々への供給は、実材積で19%減少し（年前半に中国への輸出は15%下がった。）820万m³になった。関税同盟を締結した国々に対しては、総計25万m³の丸太が輸出されたが、事実この地域では、36%の供給増があった。このグループの中で主として輸入した国々は、ウズベキスタン、タジキスタンおよびウクライナである。

ロシアにおける丸太輸出による外貨収入は、全体として7億6,400万ドル（23%減）で、その中で、関税同盟非締結の国々も23%減であった。ロシアの価格は、昨年と比較して、平均6%低下した。関税同盟非締結の国々への輸出額の減少は、供給の縮小によるだけでなく、何にもましてこの期間における輸出価格の低下による。2月と3月に価格がわずかに伸びた後、4月には、既に相当価格が落ちており、まず3%、その後5%価格が下がり、6月には、再び3%下がり、平均84.8ドル/m³になった。

関税同盟を締結した国々に関しては、供給の伸びは36%であったが、輸出額の伸びはたった23%だけであった。年前半の6ヶ月間のこれらの国々への丸太供給の価格の変化は断続的で、4月には前月比で10%という最高の伸びだった。その2ヵ月後には、8%価格が下がっている。

丸太供給が縮小する一方で、板材材料の輸出は、これとは反対に、過去5年にわたって増加してきている。しかしながら、2012年前半末までの1年のロシアからの板材の供給はたった1%伸びただけで、数量的には560万m³、金額では4%伸びて17億ドル強である。私達は、ロシアの板材の輸出が世界で3番目であることを忘れてはならない。

製材品の輸出品に関しては、ロシアの価格は、平均して、前年と比較して3%増加した。関税同盟非締結の国々への製材品の輸出は昨年のレベルと同じままで、関税同盟を締結した国々は伸びた。関税同盟非締結国々への製材品の供給量は、実材積で1%減の420万m³であった。外国為替収入は、昨年と同じ期間と同じで14億ドルであった。

年初からの輸出作業の費用（Prices for export operations）は、1月には1m³当たり349ドルに下がり、6月には308ドルまで低下した。費用の額は、各月ごとに下がった。ロシアからの製材品の主要な輸入国は、中国である。

中国への板材の供給は、過去5年にわたって急速に成長してきた。しかし、2012年前半末には、成長はかなりスローダウンした。エジプト、イラン、日本、

ドイツおよびフィンランドもロシアの板材の輸入国である。関税同盟の締結国に関しては、輸出された板材の数量は、8%増加して、実材積で130万 m^3 強まで増えた。金額は、18%伸びて、3億52百万ドルになった。3月と4月に、これらの地域では、輸出作業の費用の伸びが記録されているが、年初からはわずかに落ちて、1/ m^3 当たり260~257ドルになっている。ロシアの板材の主な輸入国は、ウズベキスタン、アゼルバイジャンおよびタジキスタンである。2013年には、カシ、ブナ、モミジ、桜の木の板材の関税は、10%（2012年は、100ユーロ/ m^3 ）になるであろうし、針葉樹の板材は3%下がるであろう。4年の期間の後には、加工木材の関税率は0になるであろう。

過去5年で、ロシアからの合板の輸出は急速に伸びている。2011年の結果では、ロシアの合板類の輸出は、世界で4番目であった。世界で1番多かったのは中国であることに注目しなければならない。2012年前半、合板の輸出は伸び続けた。そして、ロシアから世界の市場への合板の供給は、全体として6%伸び、この1年で84万 m^3 になった。これに伴う通貨所得は、たった3%増えただけで、4億6,200万ドルであった。合板の輸出数量と外国為替収入は、それぞれ73万6,000 m^3 (+2%) および4億300万ドル (-1%) であった。

2012年上半期中で、(3月と比較して)4月には、関税同盟非締結国の輸出作業費 (prices on export operations) は3%急騰し、その後に1%低下した。このように、2012年初の546ドル/ m^3 から、6月には548ドル/ m^3 と、わずかに上昇した。ロシアの合板の主要な輸入国は、米国、エジプト、ドイツ、ラトビアおよびトルコである。2月から10月の間に、関税協定締結国への供給量および輸出額は、10万4,000 m^3 (+36%)、5,900万ドル (+43%)を達成した。この6か月で、輸出価格は、560ドル/ m^3 から570ドル/ m^3 に上昇した(2~3月に3%上昇し、その後7%上昇した。その後、5月には12%下がり、6月には11%上昇した。)。同時に、前年と比較して、価格は、2%、わずかに下がっていた。

2012年2~10月の間に、関税同盟非締結の国々へのパルプの輸出量及び金額は、それぞれ総計98万1,000t (+14%)および5億3,100万ドル(-9%)までになった。この期間の間のこれらの国々への輸出価格の変化は、そう高くはなかったが、年初からは、価格は552ドル/ m^3 から544ドル/ m^3 に下がった。年上半期の関税同盟締結国への輸出は、2万6,000t (+42%)、2,000万ドル(+22%)である。

年初以来、関税同盟締結への輸出価格は、1月には627ドル/ m^3 だったのが6月には590ドル/ m^3 まで下がった。年上半期には、価格はかなり変化した。2月には、1月と比較して、10%とかなりの成長がマークされたが、3月には8%下がり、4月には5%上がり、5月には5%下がり、6月には、下がり続けて7%下がった。

ロシア 2012 年月別主要品目平均輸出価格

品目	単位	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
丸太 ロシア連邦平均	ドル/ m ³	92.2	93.7	93.6	91.2	86.8	84.3	83.7	82.3	82.3
丸太 関税同盟非締結国向け	ドル/ m ³	92.60	94.20	94.00	91.60	87.20	84.80	84.16	82.49	82.49
丸太 関税同盟締結国向け	ドル/ m ³	75.70	74.60	75.80	83.70	76.90	70.40	71.43	78.53	78.53
板材 ロシア連邦平均	ドル/ m ³	327.9	321.2	311.7	307.9	297.8	294.9	295.1	289.7	289.7
板材 関税同盟非締結国向け	ドル/ m ³	349.0	340.4	323.2	319.4	309.3	307.7	307.1	303.2	303.2
板材 関税同盟締結国向け	ドル/ m ³	260.2	256.9	266.1	273.1	265.5	256.4	260.0	253.4	253.4
合板 ロシア連邦平均	ドル/ m ³	548.1	550.8	548.2	559.3	544.1	550.8	544.7	412.5	412.5
合板 関税同盟非締結国向け	ドル/ m ³	546.1	547.4	540.2	556.1	548.7	548.2	545.8	531.6	531.6
合板 関税同盟締結国向け	ドル/ m ³	560.5	577.2	618.4	584.9	513.5	570.0	543.8	190.7	190.7
市販パルプ ロシア連邦平均	ドル/ t	554.7	548.6	534.5	540.3	541.6	545.6	520.4	486.2	486.2
市販パルプ 関税同盟非締結国向け	ドル/ t	551.8	543.5	531.0	537.0	537.1	544.2	516.7	480.6	480.6
市販パルプ 関税同盟締結国向け	ドル/ t	627.1	689.7	634.6	666.7	631.6	590.4	586.6	611.7	611.7
新聞用紙, ロシア連邦平均	ドル/ t	554.5	555.7	550.9	544.8	533.5	531.2	516.8	516.1	516.1
新聞用紙 関税同盟非締結国向け	ドル/ t	549.8	548.6	544.9	537.6	527.1	527.5	509.5	508.5	508.5
新聞用紙 関税同盟締結国向け	ドル/ t	604.9	606.3	609.4	604.7	588.2	569.1	565.9	565.8	565.8

ロシア主要品目別平均輸出価格年間推移

品目	単位	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
丸太 ロシア連邦平均	ドル/ m ³	56.3	59.6	63.8	83.9	95.1	84.6	87.1	94.7	87.8
丸太 関税同盟非締結国向け	ドル/ m ³	56.4	59.6	63.8	84.0	95.2	84.9	87.3	94.9	88.2
丸太 関税同盟締結国向け	ドル/ m ³	46.1	53.7	60.7	76.4	91.4	71.7	72.5	81.7	76.2
板材, ロシア連邦平均	ドル/ m ³	197.2	211.0	238.1	302.9	320.5	287.7	304.9	303.8	304.0
板材, 関税同盟非締結国向け	ドル/ m ³	216.9	230.1	265.4	350.0	352.3	320.2	331.1	320.6	318.0
板材 関税同盟締結国向け	ドル/ m ³	104.7	131.1	149.8	183.8	253.0	214.3	220.4	245.8	260.6
合板 ロシア連邦平均	ドル/ m ³	294.9	345.8	355.4	509.1	577.8	387.9	456.2	569.9	519.0
合板 関税同盟非締結国向け	ドル/ m ³	290.8	341.9	351.4	501.7	572.0	389.5	456.3	571.7	543.9
合板 関税同盟締結国向け	ドル/ m ³	368.4	394.4	392.8	573.2	618.5	375.3	454.7	544.0	483.3
市販パルプ ロシア連邦平均	ドル/ t	377.5	390.8	439.1	547.9	573.2	412.6	603.2	653.2	528.7
市販パルプ 関税同盟非締結国向け	ドル/ t	371.6	386.9	436.6	545.6	568.1	409.5	601.1	651.2	524.7
市販パルプ 関税同盟締結国向け	ドル/ t	472.0	458.3	491.2	593.7	694.1	482.5	658.4	696.0	627.8
新聞用紙, ロシア連邦平均	ドル/ t	395.3	459.4	507.1	543.6	601.5	480.6	481.5	584.0	535.5
新聞用紙 関税同盟非締結国向け	ドル/ t	390.5	456.3	498.6	527.1	591.3	474.7	477.4	582.2	529.1

このように 2012 年上半期の木材産業の主力輸出商品の輸出の分析結果によれば、関税同盟非締結の国々へのかなりの供給の減少、および関税同盟締結国への供給の増加ということをお話することができる。

輸出作業の賃金は、年初から引き下げられただけでなく、2011 年の前半期と比較しても引き下げられている。

2012 年 2～10 月の間では、すべての木材、パルプおよび紙製品の輸出で同様の傾向が観察される。

これらの国々の需要の減少を補うために、生産者は、グローバル危機というニューウェーブをまだ経験していない関税同盟締結国への木材輸出を増加させ始めた。全体として、2012 年 1～6 月、ロシアの材木、パルプおよび紙製品の輸出額は、ほとんど前年の同じ期間のレベルであり、関税同盟非締結国への 40 億ドル(-8%)、関税同盟締結国への 10 億ドルへ(+47%)を含む、ちょうど 50 億ドル強であった。2012 年の前半の 6 か月の末までの木材輸出のシェアは、ロシアの輸出品からの収入総格の 2%未満までになったことに注意していただきたい。

ロシアの木材、パルプおよび紙製品の輸入のシェアとほぼ同じで、連邦の輸入総額の 1.9%である。

2012 年前半に、ロシアの木製品の輸入は、27 億ドル以上までになった。

材木、パルプおよび紙製品の輸入と輸出には、同じ傾向があり、関税同盟締結国への増加は 11%で、4 億 5,600 万ドル、そして関税同盟非締結は 14%の低下で、22 億 8,000 万ドルであった。

貿易収支は黒字で、23 億ドルを超えている(+2 億 8,300 万ドル)。